

平成二〇年度 特別展

加賀の東照宮

尾崎神社展

金沢市立玉川図書館
近世史料館



尾崎神社展に寄せて

尾崎神社の本殿附厨子・中門・透塀・拜殿及び幣殿・附棟札四枚は国の重要有形文化財に指定されております。

これら国指定文化財のうち、本殿及び中門の修理工事が本年二月より来年三月にかけて行われており、今回これを契機に、本殿に収納されていた社宝・神宝類を、広く市民の方々に接していただく機会を設けていただけることとなりました。

展示品は神社資料であり、当然宗教的な意味をもつ品々であります。これらは徳川家康を祭神として建立された尾崎神社の東照宮としての歴史の中で生まれてきたものであります。

尾崎神社の歴史と収蔵される品々はまさに幕藩体制下における藩主前田家の対幕府策を含め、加賀藩・前田家の歴史を語る資料としての面をも持つものであり、一神社・一宗教を越えた郷土の歴史資料として評価されます。

貴重な資料の品々を、近世史料館において展示することをご快諾いただいた尾崎神社宮司永井隆様にお礼を申し上げます。

通常は尾崎神社本殿の奥に収蔵されている品々に接することは稀なことであり、この機会に多くの皆様にご覧いただければ幸いです。

平成二十年十一月八日

金沢市立玉川図書館 館長 森田 勝

尾崎神社の歴史

尾崎神社の社号は明治七年からのもので、藩政期には金沢城内北の丸に建立され「東照宮」「権現堂」「御宮」と称されていた。同社に残る棟札には「東照三所大権現社」と記される。この名から判るように徳川家康を祀る社であった。

寛永十七年（一六四〇）四代藩主前田光高の願いにより、幕府は東照宮勧請の認可を与え、同二十年（一六四三）御神体を東叡山から迎え社殿を竣工した。

徳川家康の神格化、日光東照宮の設置には、天台僧天海が大きな役割を果たしたが、加賀への勧請においても棟札に「寛永貳拾年九月十七日御導師山門三院執行探題大僧正天海」と見え、天海は病により加賀には来ていないが、名目上にせよ東照宮の加賀勧請に大きく関わっていた。

日光東照宮は元和三年（一六一七）に築かれ、同年東照大権現の神号が与えられた。その後、東叡山寛永寺や御三家に勧請され、間もなく前田家にも勧請が許され、前田家家への勧請は他の外様大名に影響を与え、以降約六百の東照宮が全国に誕生したといわれる（圭室文雄『政界の導者天海・崇伝』）

廃藩以後は城地が陸軍省管轄となったため、明治十一年旧御算用場跡の現在地に移転した。同年移転に係る棟札には「東照大神尾崎神社」の名称が記されている。

現在祭神は天照大神・源朝臣家康・菅原朝臣利常の三神となっている（『石川県神社史』）。

讃

歸命満月界

浄名瑠璃光

法薬救人天

因中十二願

三国伝灯

山門執行権頂 大僧正天海同様



東帯姿の家康遺像である。上部は雲とその雲中に讃が記され、雲下には葵紋が施された垂簾、その下に顔を画面の左に向けた家康が描かれている。背景には日光の山容と社殿と思われる景色が配されている。手前欄干内には阿吽の狛犬が配置され拝殿を表している。

このような権現像の初出は寛永十四年（一六三七）といわれ（守屋正彦『近世武家肖像画の研究』、初出とされる滋賀県聖衆来迎寺の画像は四代木村了琢が描き、天海の讃とされる。権現像の画師には木村了琢の他に狩野安信・狩野山雪がいた。

尾崎神社蔵の画像は絵師・讃の筆ともに不詳であるが、東照宮創建時の寛永二十年（一六四三）に下賜されたものと推測され、また讃に「天海同様」とあり、天海自筆の讃と同様の意を持つものと解される。

日光東照大権現十八将之図

絹本着色 九七×五五 cm

徳川の将を描いたものとしては、十六将図・二十将図は見られるものの、十八将図は少ない。同様の様式をもつものとして武田二十四将図などがある。図は上部中央に床机に腰掛けた家康と思われる人物の下半身のみが描かれ、上半身は御簾に隠され、その上も霞が引かれている。武将は上部に五人残り十三人が左右対座する定型的な描かれ方をしており、武将の様相も兜を着した者、頭巾を着した者など種々である。各武将名は記されていない。

右下印文「雲水飛動」。作者 不詳



天海書状

寛永二十年八月二十日

日光東照大権現
 御座候に、先以共後者
 不申談、疎遠之至候、
 我等も従去月中旬
 相煩、爾今平臥之躰候、
 大方得驗気候間、
 可御心易候、委曲
 常照院可申候、恐々
 謹言
 大僧正
 八月廿日
 西尾準人殿
 人々御中

※東照権現の霊代が江戸を発し、金沢に向かったことを伝え、自身の病のことも伝えている。

棟札

上棟式に願主・上棟年月などを記して棟木にとりつけたもので、社殿造営・修復の期日を示すものとなる。
尾崎神社の本殿・拝殿等は国指定の重要有形文化財となっており、棟札①②③も併せて指定されている。

- ① 寛永二十年（一六四三）九月十七日 八〇×二九 cm
願主前田光高 創建



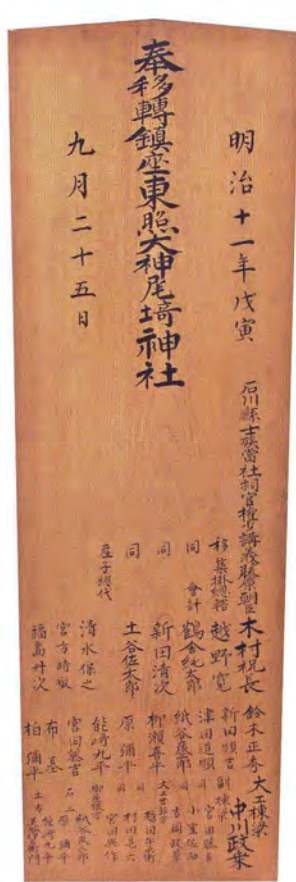
- ② 延宝五年（一六七七）五月二十八日 八〇×二九 cm
願主前田綱利（綱紀） 修復



- ③ 宝暦五年（一七五五）九月十五日 八〇×二七 cm
願主前田重基（重教） 遷宮修復



- ④ 明治十一年（一八七八）九月二十五日 八〇×二七 cm
移転・移築



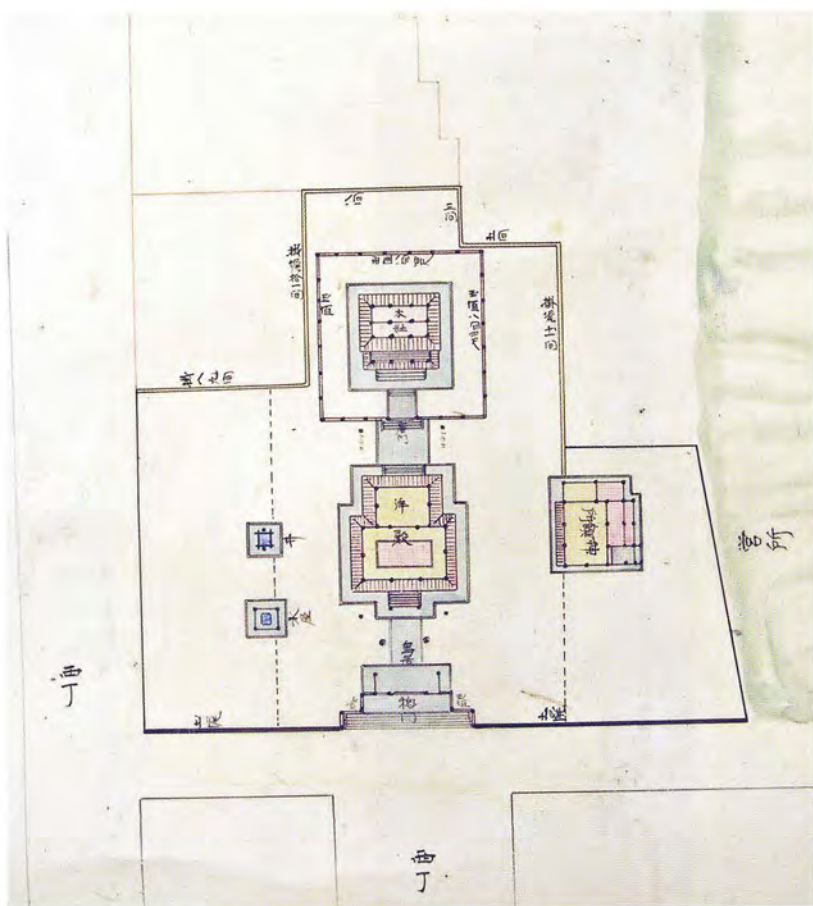
御宮移転図巻

卷子 一部彩色

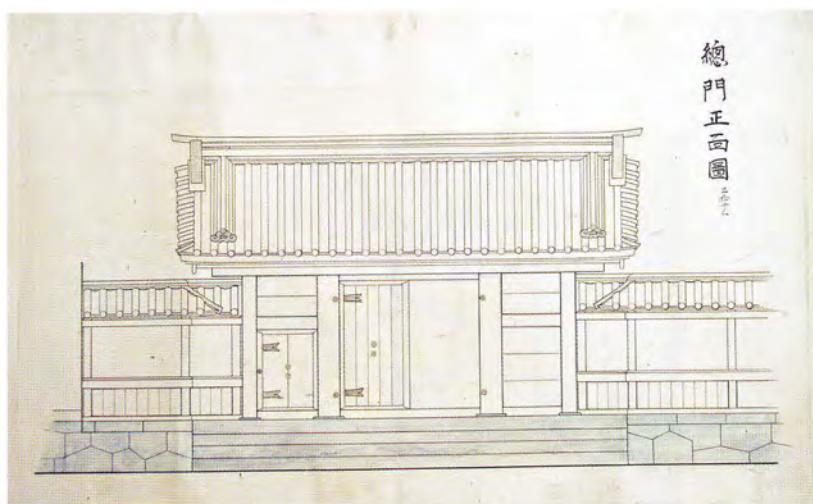
明治十一年城内北の丸より現在地に移転する際に作成されたもの。ここでは全てを掲載することはできないが、記載されている図は尾崎神社在来地指図（城内立地時）、神社転地惣地指図（現在地）および建物図面として、総門側面図・同正面図、隨身門側面図・同正面図、鳥居ノ図、水屋ノ図、井戸覆ノ図、拝殿地指図、拝殿側面図・同正面図、神饌所側面図、唐門側面図・同正面図、御本社指図、本社側面図・同正面図が描かれている。配置図は四百分の一、立面図は三十分の一、平面図は五十分の一の縮尺となっている。

図は渡部知先の手になる。加賀藩御大工の中に渡部祐六郎知重の名が見られ、その嫡子に初之進という者がいる。初之進は嘉永二年（一八四九）に御雇となり、三十俵の扶持を得て、慶応三年（一八六七）には定番御歩次列御作事御用を勤めている（「御大工頭御大工被召出候名前等覚書帳」清水文庫）。知先の名は出ていないが、初之進が本図を作成した渡部知先であると考えられる。

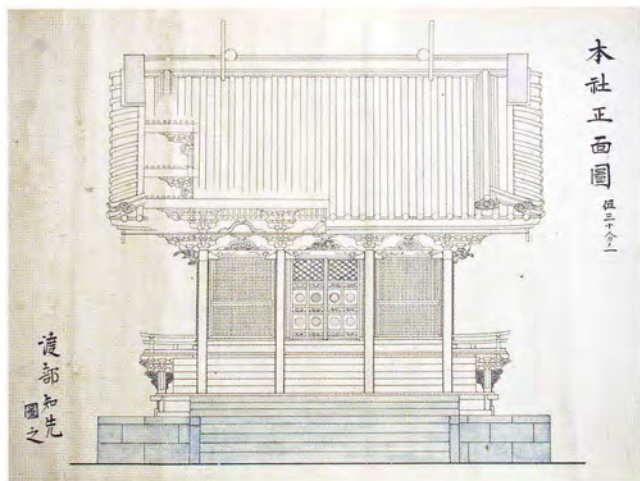
神社転地惣地指図



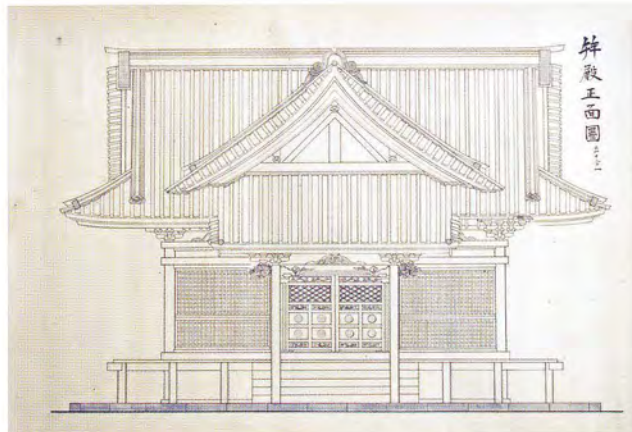
總門正面圖



本社正面圖



拜殿正面圖



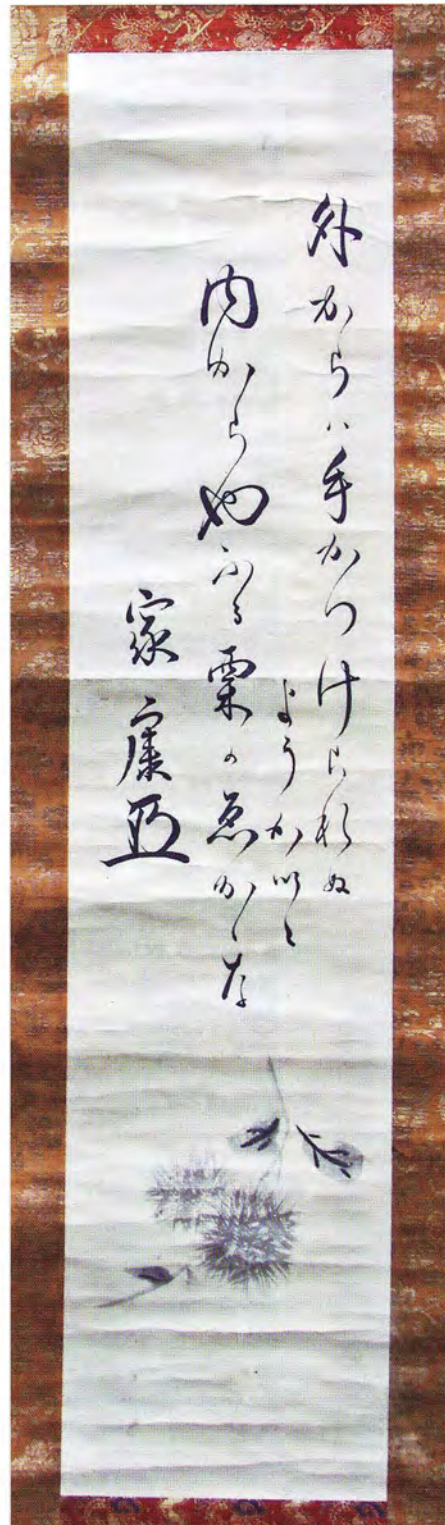
奉納刀剣

陀羅尼勝国作 長二尺七分・反り一寸五分

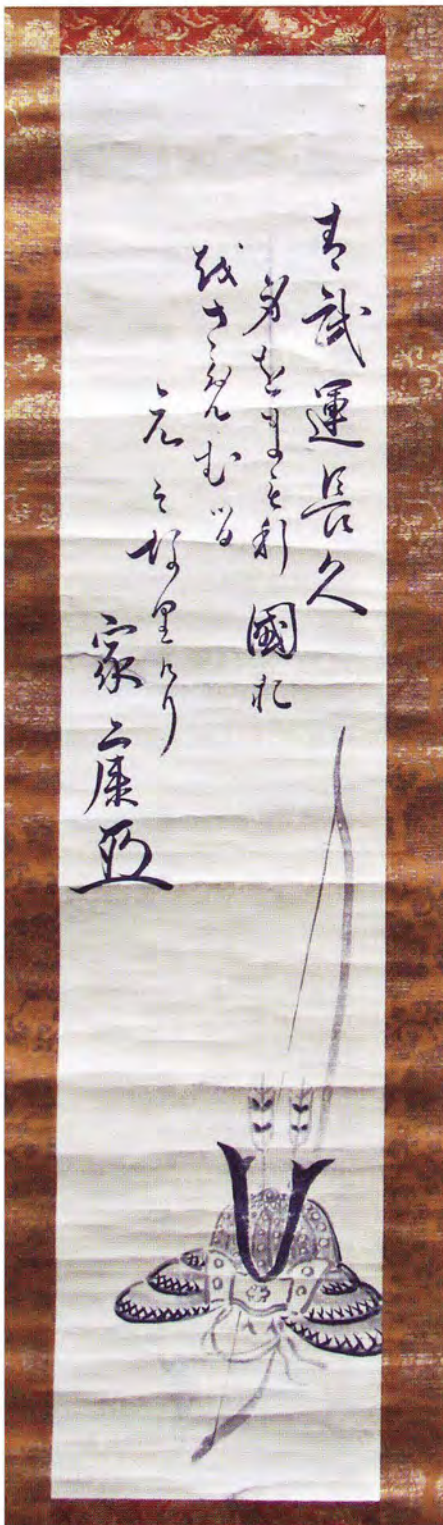
鞘部に「奉納 加州住陀羅尼橘勝国作」とある。尾崎神社には他にも若狭守氏房・大和太尊藤原正則・二王清方・宮一貫齊国護銘の奉納刀がある。

今回は郷土の刀工として陀羅尼勝国の作刀のみを展示した。勝国の系統は初代勝家は越前に住したが、二代勝家より加賀国金沢に住した。勝国銘の使用は寛文期の善三郎と貞享期の善三郎、享保期の善三郎と三代にわたり勝国を名乗っているのが確認できる（加越能鍛冶略伝）。

東照神君遺訓（教訓和歌） 一〇一×二二・五cm
東照神君遺訓として伝えられ、家康の署名と花押が付された和歌二首。



外からは 手かつけれぬ ようかいと 内からやふる 栗のゑかゝな 家康



寿 武運長久 身をまもり 国をおさめむる 元そなりけり 家康



中納言家持



凡河内躬恒



柿本人麿



源公忠朝臣



権中納言敦忠



中納言兼輔



坂上是則



藤原興風



藤原清正



猿丸大夫



素性法師



在原業平朝臣



源宗于朝臣



藤原敏行朝臣



斎宮女御



平兼盛



大中臣能宣朝臣



三条院女藏人左近



山辺赤人



伊勢



紀貫之



壬生忠岑



藤原高光



中納言朝忠



藤原元真



清原元輔



源順



小野小町



紀友則



僧正遍昭



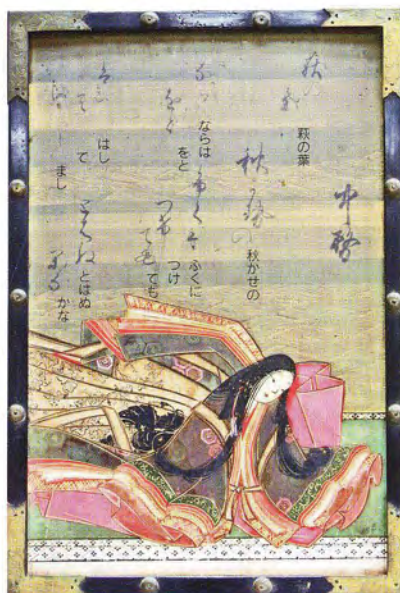
源信明朝臣



源重之



大中臣頼基朝臣



中務



壬生忠見



藤原仲文

三十六歌仙図額面 板絵彩色

四六・七×三〇・二cm
石川県指定文化財

奉納年・奉納者・作成年・筆者は不詳である。
筆者については、背景の草花が宗達風であり、歌仙の形容が宗達筆の歌絵の原形を有しているところから、加賀藩の絵師俵屋宗雪ではないかと推測されている（『金沢市の指定文化財と指定保存建造物』）。

俵屋宗雪は喜多川宗説とも記し、宗達の子とも弟子ともされる。宗雪は東照宮創建時の人物であり、東照宮の創建時に三十六歌仙図額が作成されたものと考えられよう。

また、東照宮創建に関わった幕府の御大工木原木工允は川越の東照宮再興において歌仙奉掲の差配にあたっており、金沢の東照宮への歌仙奉掲にもかかわっているのではないかとされる（戸淵幹夫「三十六歌仙絵馬奉納の社会史」『石川県立歴史博物館紀要十五』）。

三十六歌仙は、すぐれた三十六人の歌人の歌仙連歌の略称であり、後拾遺集時代までのものを「左」、それ以降のものを「右」としている。

歌仙図は三十六歌仙の像と詠歌を書き添えたものである。これら歌仙絵を扁額として神社の奉納するようになるのは室町時代中期からといわれる。



尾崎神社拝殿



本殿狛犬
(創建時のものと推測される。)



平成20年度 特別展

加賀の東照宮

尾崎神社展

会 期 平成20年11月8日(土)～20年1月12日(月)
編集・発行 金沢市立玉川図書館近世史料館
印 刷 田中昭文堂印刷株式会社

※なお、11月24日(月)～12月5日(金)は特別整理期間のため休館。
12月29日(月)～1月5日(月)は年末・年始の休館となります。

※表紙：寛文八年(1668)「加賀国金沢之絵図」(本館蔵)